

コリーニ事件 (2019)

THE COLLINI CASE

メディア 映画

ジャンル ミステリー ドラマ サスペンス

製作国 ドイツ

色彩 Color

時間 123分

初公開日 2020/06/12

公開情報 クロックワークス

映倫 G

【キャッチコピー】

正義に挑む

【解説】

ドイツの著名な刑事事件弁護士でもあるフェルディナント・フォン・シーラッハの同名ベストセラーを映画化した社会派法廷サスペンス。ある殺人事件の国選弁護人になった新米弁護士が、頑なに動機を語ろうとしない被告人の弁護に苦しみながらも、やがて事件の背後に潜むドイツ刑法の大きな闇をあぶりだしていくさまを描き出す。主演は「ピエロがお前を嘲笑う」のエリアス・ムバレク、共演にハイナー・ラウターバッハ、アレクサンドラ・マリア・ララ、フランコ・ネロ。監督は「クラバート 闇の魔法学校」のマルコ・クロイツパイントナー。

新米弁護士のカスパー・ライネンは、思いがけず大きな事件の国選弁護人に任命され意欲をみせる。それは、ドイツで30年以上模範的市民として暮らしてきたイタリア出身の男ファブリツィオ・コリーニが、経済界の大物を殺害したというもの。しかし被害者がカスパーの少年時代の恩人ハンス・マイヤーだったことで戸惑いを隠せない。しかも法廷で対決する遺族側には、彼が大学時代に刑法を教わった伝説的な刑事事件弁護士リヒャルト・マッティンガーがついていた。にもかかわらず、コリーニは犯行の動機を頑なに語ろうとせず、すっかり弁護に行き詰まるカスパーだったが…。

【クレジット】

監督	マルコ・クロイツパイントナー	Marco Kreuzpaintner
製作	クリストフ・ムーラー	Christoph Muller
	ケアスティン・シュミットバウアー	Kerstin Schmidbauer
	マルセル・ハルトゲス	Marcel Hartges
製作総指揮	マルティン・モスコヴィッツ	Martin Moszkowicz
原作	フェルディナント・フォン・シーラッハ	Ferdinand von Schirach
脚本	クリスティアン・ツバート	Christian Zubert
	ロバート・ゴルト	Robert Gold
	イェンス＝フレデリク・オットー	Jens-Frederik Otto
撮影	ヤクブ・ベイナロヴィッチュ	Jakub Bejnarowicz
編集	ヨハネス・フープリヒ	Johannes Hubrich
音楽	ベン・ルーカス・ボイゼン	Ben Lukas Boysen

『コリーニ事件』
(創元推理文庫刊)

出演	エリアス・ムバレク	Elyas M' Barek	カスパー・ライ ネン
	アレクサンドラ・マリア・ララ	Alexandra Maria Lara	ヨハナ・マイヤー
	ハイナー・ラウターバッハ	Heiner Lauterbach	リヒャルト・マッ ティンガー
	マンフレート・ツァパトカ	Manfred Zapatka	ハンス・マイヤー
	ヤニス・ニーヴェーナー	Jannis Niewohner	若い頃のハンス・ マイヤー
	ライナー・ボック	Rainer Bock	ライマース
	カトリン・シュトリーベック	Catrin Striebeck	裁判長
	ピヤ・シュトゥッツェンシュタイン	Pia Stutzenstein	ニーナ
	フランコ・ネロ	Franco Nero	ファブリツィオ・ コリーニ